

ス・ユ・ニ・日・中

版 コ ス ネ シ

高知新聞 No. 278 本編同い
新愛媛新聞 No. 126

No. 463 37.11.30

山口新聞 No. 137
ス々々中学学生会新で連勝 - 山口駅伝 - 11月 (本編トッパへ追加)

一、正月をかせぐ

— 愛知・東京

師走を前に、銀座には、歳末セールのウサギのサンタクロースが登場。来年のウサギは、早くも商売に役買わされています。
瀬戸のかま元には、ウサギの置物の注文が殺到し、どここの家でも、ウサギづくりにてんてこまい。
また、縁起ものの目なしダルマも、来年の選挙をひかえた候補者からの注文が舞いこみ、年に一度のかき入れに嬉しい悲鳴をあげています。

一、山谷の群衆騒ぐ

— 東京

十一月二十三日夜東京都浅草山谷で食堂の客扱いが悪かったとドヤ街の群衆千五百人が騒ぎだしました。騒動の発端となったアサヒ食堂はメチャメチャに壊れ、千名の機動隊員と八十台のバトカーが出動。三日間にわたって深夜までこぜりあいが続いたのです。今年に入ってから山谷も不景気の波にあらわれており住民たちは日雇いの仕事も事欠く始末。日頃の不満がわずかのいさかきをきっかけに爆発したものです。

一、つぶされた「未来像」社会党荒れる

十一月二十五日池田首相は、ヨーロッパ訪問の旅を終えて帰国、予期以上の成果にすっかり上気嫌でした。

一方、二十七日から開られた社会党大会では江田書記長の書いた社会主義の未来像がやり玉に上り、役員人事もからんで左石両派が激しく対立。
左派が出した江田書記長の反省を求める決議案が二十一票の少差で可決されると、江田氏が辞意を表明して退場するなど、深刻な事態を招いています。

アイモ風土記

一、おらが村はガス・ブーム

— 新潟

頸城平野の山ぞいといつてもむしろ信州飯山に程近い板倉町栗沢部落は、今天然ガス・ブームにわいています。

ところがそんな山の部落にガスがといつても少しの不思議もないのです。というのも、この地方はかつて幕末から明治にかけては石油の出る場所として知られて来ました。だがこの地方は又日本でも有数の地すべり地帯でもあったのです。そのため、石油井戸は度重なる地すべりであまり、次々に壊坑になったため、何時のまにか忘れて来たのです。

ところが五〇年も経った今日、壊坑になった井戸から石油に代り天然ガスが出ているのを、村人が焼畑をしてる最中に発見、それからというもの、これから長い冬眠に入る雪国の村では結構なものが出て来てくれたと寄るとさわる。このガスの話でもちつきり。

昔の井戸を掘った古老の話を頼りに昨今では畑や田圃のあちこちを掘りかえしてガスがしは血まなこ、ところが案内役に引っぱり出された古老も何んせ五〇年も昔のこととあつては、あんまり頼りにもならず大変なガスさがしをやっています。

そして発見された田んぼの古井戸からは、新潟——東京を結ぶガス・パイプラインの向うをはつてピニール・パイプで台所と直結、設備はともかく村の台所はカマドに代つてガスコンロに代る改善ぶり、石油がガスに代つた村のお宝は、とんだところで農家の生活改善に役立つっている様です。